

B—61 意匠学作品に関する考察 —特に色彩表現と気質との関連—

宇都宮大教育 戸塚 歌子

1. 生活欲求すなわち実用的、社会的、美的欲求は、デザイン発生の基盤であり、デザインは、緻密な思考力、精鋭な観察力、そして果敢な行動力によって表現された精神活動の結果である。デザイン学習の目的は、これらの能力の育成にあると信じている。

デザイン学習における初期的作品の「画面構成」の分析を、性格との関連において考察し、生活設計指導への手がかりとしたい。

2. ①、試料は本学40年度前期開講意匠学聴講生71名（全学年）を対象にし、デザイン学習に併行して課題を与え、初期的段階のA、幾何形態を主題としたものを2、B分割を主題としたもの1をえらびその他の主題の作品は参考にした。②、各々の作品については、産業色票962色を採用し、隣接法による比色を無彩色マスクを使用し、自然昼光により照度 $800 \pm 100 \text{Lux}$ 色温度 $6000 \pm 500 \text{°K}$ の範囲内で実施した。

③、性格判定は、内田クレペリン検査を実施し、数量的取扱いによる性格指数と、経験的読解とを併用し、判定を行なった。

3. (イ)、画面構成における繊細な線の使用率には、性格特徴が見受けられ、画面構成においても粘着性性格、分裂性性格は、複雑化の傾向を示し、躁うつ性性格、自己顕示性性格は、単純化傾向を示す。(ロ)、性格別に、色相、明度、彩度についてそれぞれの特徴が見出された。